

国家課題解決 参考に

岩木健診にブータン政府視察団

仕組みづくり学ぶ

弘 前

生活習慣病の増加、若年層の失業率上昇の問題に直面しているヒマラヤのブータンで課題解決を目的とした国家プロジェクトが進められている。その参考にしようと、同国政府関係者ら13人が2日、弘前市の岩木文化センターあそびる・中央公民館岩木館を訪れ、弘前大学が中心となって取り組む大規模な住民合同健診「岩木健康増進プロジェクト」(岩木健診)を初めて視察。世界に類を見ない超多項目の健康ビッグデータを蓄積する仕組みづくりを学び、同様の取り組みを始めた。【稲葉智絵(関連記事4面)】



村下副学長(奥左から3人目)の案内で、指先の毛細血管による冷えの測定を体験するブータン政府関係者(手前左端)ら

国際協力機構(JICA)によると、ブータンでは塩分の多い食事や運動不足により糖尿病、高血圧といった生活習慣病が増加傾向にある。国民は公立病院での診察や治療などを原則無料で受けることができるが、医療費増大に伴う財政負担が懸念されている。さらに、基幹産業の農業離れによる若年層の都市部集中、国外流出が止まらず、予防医療に関するサービスの社会実装、健康分野を含む新産業の創出が急務となっており、健康に関するデータの一元管理を目指す国家プロジェクトが立ち上げられたという。

岩木健診がブータンの構想に近く、政府関係者が関心を寄せていることから、プロジェクトを支援するJICAとコンサルティング

を担当するアクセシブ(本社東京)が視察を企画。政府技術庁や保健省の担当者、王立医科大学副学長らが参加した。岩木健診を統括する弘前大副学長の村下公一教授の案内で、3000項目に及ぶ健康データを測定する全64ブースを回り、参加する大手企業や弘前大の担当者から測定内容について説明を受けた。下肢筋力を評価する立ち上がりテストのほか、クラシエのブースで指先の毛細血管の画像による冷えの測定、スマホで撮影した顔の動画から脈拍や血

中酸素飽和度などを測定するNEDのAI(人工知能)技術、血管の老化や骨粗しょう症の原因となる糖化産物を前腕部の皮膚から測る雪印メグミルクの機器を体験した。政府技術庁のプロジェクトマネジャー、タシ・チョーテンさんは「多項目の測定内容に加え、参加企業などが独自開発した機器や技術を見ることができ、とても参考になった。全国民が健診を受けられる体制整備とともに、王立医科大学や企業などと連携し、ブータンでも岩木健診のような大

規模健診を始めたい」と話した。村下副学長は「(岩木健診が)国内にとどまらず、世界的に注目度が高まって

いることを実感した」とし、「健康寿命延伸につながる方法の確立とデジタル化の研究を深め、途上国をはじめそれぞれの国に合わせた健康づくりの提案、世界中の人々のウェルビーイング(心身および社会的に健やかで幸せな状態)向上に貢献していきたい」と述べた。